

■ご挨拶

当社の風力発電への取り組み

日本風力発電協会 監事 小林 一誠
日立造船株式会社 風力発電事業推進室



はじめに

平成 28 年 5 月の定時社員総会を経て、引き続き監事を務めさせていただきます日立造船の小林です。一昨年の定時社員総会で、前任の当社の鈴木との交代をご承認いただきました。

不慣れな監事業務ですが、足立監事初め事務局・理事の皆様のご指導・ご協力で何とか無事 1 年を終えることができました。引き続き、協会発展のため頑張りますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

当社の風力発電への取り組み

昨年の監事就任挨拶として、前年度号（第 11 号）で当社のこれまでの風力事業への取組みをご紹介させて頂きました。2001 年当社系列の伊東カントリーに 1 号機（650kW）、2005 年には GE 社製（1,500kW）を広川町に、2006 年にはユーラスエナジージャパン殿とガメサ社製（2,000kWx6 機）を下北半島の尻尻に建設しました。発電事業者というよりは EPC を主体とした位置付けでしたが、FIT を追い風に軸足を発電事業者へシフトすべく、昨年 4 月に、今後期待される洋上風力と陸上風力を統合し“風力発電事業化推進室”が当社“社会インフラ事業本部”内に発足しました。更なる事業化を加速させるため、本年 4 月には社長直属の組織として“風力発電事業推進室”として、体制強化・要員補強が実施されました。以下、陸上及び洋上の直近の成果・取組みをご紹介します。

雄物川風力発電所



洋上風力発電所(イメージ図)



陸上風力発電

風力発電設備の建設から長期の売電事業を一貫して実施するため、平成 25 年に当社の 100% 出資会社の(株)雄物川風力を、平成 27 年には(株)いわき風力を設立しました。雄物川 1 号機は平成 27 年 3 月、2 号機は平成 28 年 2 月に運開し、順調に稼働中です。また後者の岩城勝手発電所は現在建設中で来春に運開予定、引き続き松ヶ崎発電所の建設を開始し、平成 30 年には運開予定です。一方、環境影響評価法の適応される大型のウィンドファームとして、青森県六ヶ所村の事業化の最終ステージを迎えています。引き続き、第 2、3 の大型ウィンドファームの事業化を鋭意進めてまいります。

洋上風力発電

当社は全水深に対応するため、着床式と浮体式のどちらにも取り組んでいます。着床式は、新潟県村上市の岩船沖洋上風力の公募に応募し、平成 27 年 2 月に当社を代表とするコンソーシアムが事業候補者として採択され、現在事業性評価を実施しています。一方浮体式は、平成 24 年にノルウェーの Statoil 社と技術提携し、水深 100m 以上の海域を対象としてスパイ型浮体の検討を進めています。また NEDO が公募する水深 50~100m の浅海域を対象とした次世代浮体式洋上風力発電システム実証研究に採択され、フランス IDEOL 社のバージ型浮体を使用して検討を進めています。



おわりに

以上のように、当社は風力発電事業者としては新参ですが、当社組織の強化と共に、部会活動にも積極的参加するよう働きかけてまいります。また、私自身も風力発電の知見も経験も十分ではございませんが、会社共々協会発展の為懸命に努力しますので、ご支援・ご鞭撻を宜しくお願ひ申し上げます。